

平成27年度（保健体育）授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	自分自身の技能を把握できている生徒もいるが、全員が課題をもって取り組んでいるわけではない。自分自身の技能を把握させ、相互にアドバイスをさせる場を設ける必要がある。	生徒の意欲に合わせ、課題を設定し、こまめにアドバイスしていく。また、意欲的な生徒と一緒に学習できるように、ペアでの学習設定を多く取り入れていく。	学習カードを活用し、自己の体力・技能等を把握させ、目標をもたせる。 また、グループ内で生徒同士の教え合いができるように、リーダー的な存在の生徒にもアドバイスするように促していく。
第二学年	苦手意識を持った生徒や支援の必要な生徒がいるので、運動の楽しさを体感させるために、個々の技能に応じた指導や、段階的な指導をおこなっていく必要がある。また、けじめをつけられない生徒もいるので、より安全面に配慮する。	授業の導入や単元の導入で興味関心の高まる体育理論を取り入れ、集中して話を聞く姿勢を作る。また、実技の授業の中では、安全についての配慮などの話は、実際の場面で繰り返し指導していく。	学習カードを活用し、自己の体力・技能等を把握させ、目標をもたせる。注意事項が聞けない生徒には個別に指導をする。また積極的に運動活動に取り組める生徒に対しては新しい課題を提示し、さらに上を目指して、意欲的に学習できるように指導していく。
第三学年	自分の課題を把握できていない生徒がいる。自分に合った課題を見つけ、改善していくことができるような授業を展開していく必要がある。	具体的にやって見せて、生徒の意欲・集中力を高めていく。また、注意点をお互いに確認できるようにペアやグループ学習を設定する。また、単元の途中で目標の見直しが必要な時は、その場に応じた指導を適切にしていく。	学習カードを活用し、自己の体力・技能等を把握させ、目標をもたせる。 目標や課題がわからなくなってしまった生徒には、個別支援をしていく。 また、グループ内で生徒同士の教え合いができるように、リーダー的な存在の生徒にもアドバイスするように促していく。 保健の授業において、自然災害について深く学ぶ。また心肺蘇生法については実習を行う。